

あきまろ 秋麻呂くん 通信



『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

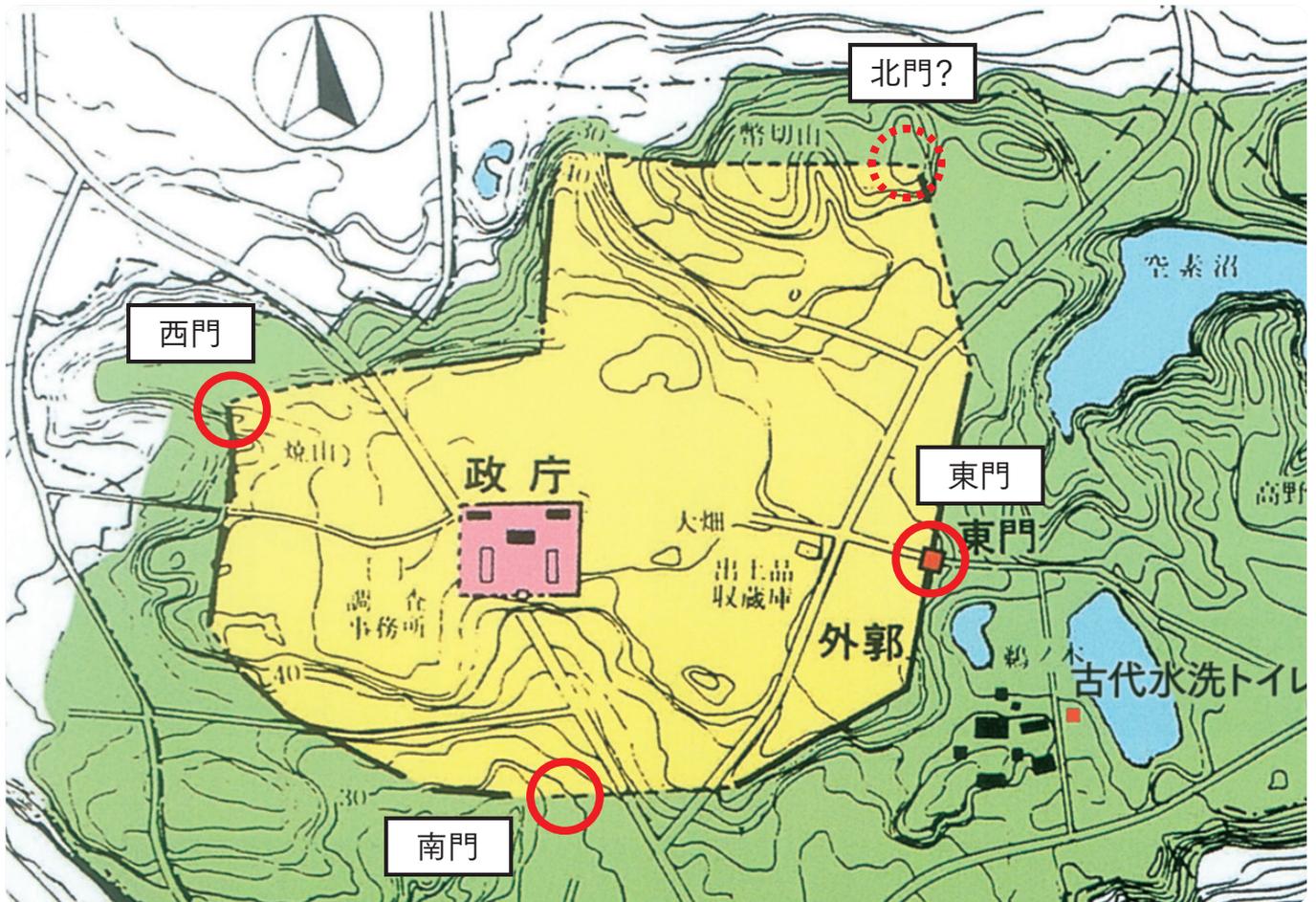
城門(外郭施設の門)

平成25年7月31日 秋田城跡調査事務所



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、秋田城で発見された城門(外郭施設の門)について紹介します。



秋田城で発見された城門(外郭施設の門)

秋田城のような古代城柵官衙遺跡の外郭施設には、東西南北に出入口の城門があったと考えられています。これまで、秋田城跡では54次調査(平成元年度の調査)で東門、92次調査(平成20年度の調査)で西門、101次調査(平成24年度の調査)で南門が発見されています。北門もあったと考えられますが、現在のところ発見されていません。秋田城跡

の復元整備では、東門を立体復元しており、秋田城の史跡公園としてのシンボルとなっています。

こうした城門(外郭施設の門)は、いわば城柵の「顔」のような存在であり、それぞれの特徴から秋田城の役割を知ることができます。

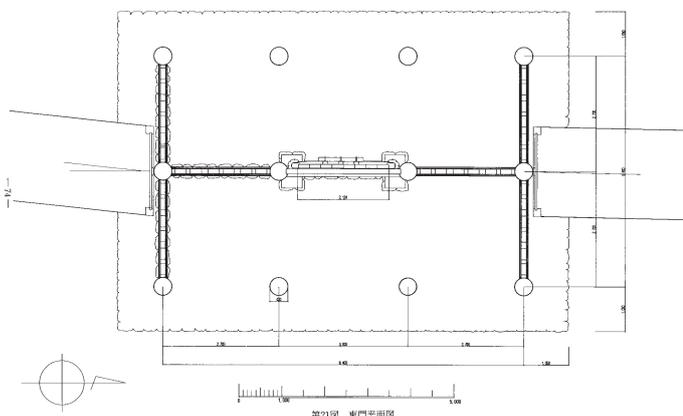
秋田城 外郭東門



■発見された外郭東門の遺構(東から)



■復元された外郭東門(西から)



■外郭東門復元平面図

外郭東門は第54次調査の結果、平面規模は桁行3間、梁行2間であることがわかりました。門は掘立柱式の八脚門で、少なくとも2期の変遷が確認されています。柱間の間隔は、桁行2.7m+3.0m+2.7m、梁行2.7m+2.7mであることがわかりました。発掘調査で外郭東門を発見した時、門の間を通る市道がありました。この市道は奈良時代から現代まで連続と使用されていたこととなります。

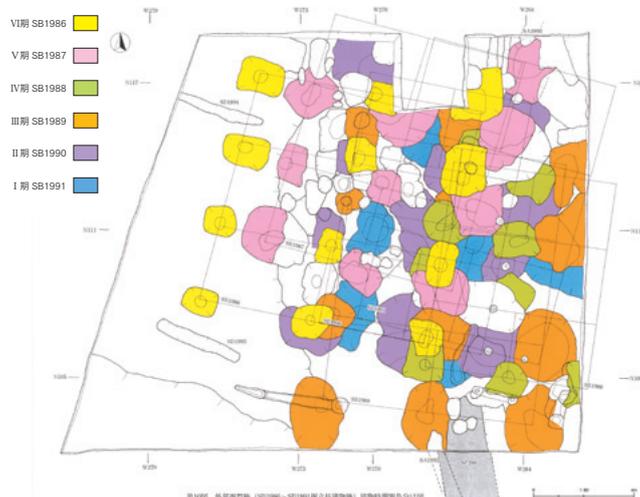


東門を通る道は奈良時代から現代まで使用されていたんだ!!

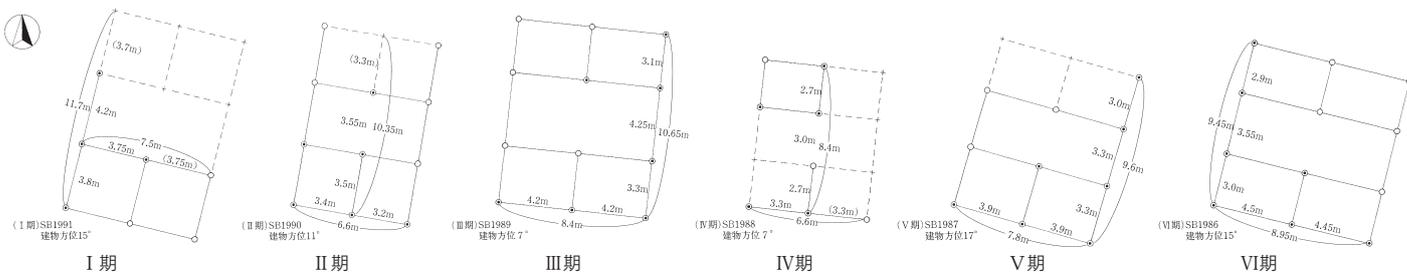
秋田城 外郭西門



■発見された外郭西門の遺構(南から)



■外郭西門の遺構図



■外郭西門の変遷

外郭西門は第92次調査の結果、平面規模は桁行3間、梁行2間の規模であることがわかりました。門は掘立柱式の八脚門で、6期の変遷が確認されており、秋田城が設置されてから約200年間継続的に門が設置されていました。柱間の間隔は時期により異なりますが、3回目の建て替えが最も大きく、4回目の建て替えが最も小さくなっています。全体的に東門より大きく奥行きがあり、大型の門で2階をもつ重層門である可能性があります。西門は、日本海を望む高台に立地しており、秋田城の海側からの「玄関口」とであるといえるでしょう。

秋田城 外郭南門



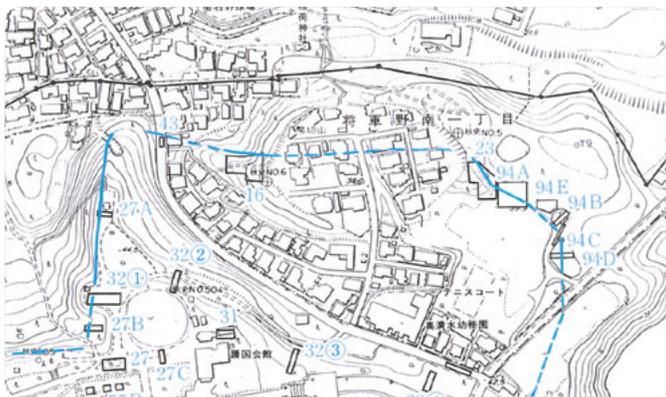
■発見された外郭南門の遺構(南東から)

外郭南門は第45次および101次調査の結果、平面規模は桁行3間、梁行2間の規模であることがわかりました。門は掘立柱式の八脚門で、少なくとも5期の変遷が確認されています。柱を据えた穴が全部は発見されていませんが、柱間の間隔は桁行3.9m+4.5m+3.9m、梁行3.3m+3.3mの規模をもつと考えられます。外郭東門よりは大きく、西門とほぼ同じぐらいの規模を持っています。通常、外郭南門は正面の出入口であり、それにふさわしい規模をもっている門であるといえるでしょう。



■外郭南門の遺構図

秋田城 外郭北門



■外郭北門推定位置周辺地図

秋田城のような城柵官衙遺跡の外郭施設では、東西南北の門が造られていたはずですが、これまで40年以上にわたって発掘調査が行われてきましたが、未だ北門は発見されていません。北門を発見するのが今後の課題です。

北門はどこにあるのかなあ？





各地の城門(外郭施設の門)

奈良・平安時代に造営された門は、秋田城以外に多く発見されています。いくつかの遺跡では立体的に復元されたものがあり、その特徴によりそれぞれが担った役割や遺跡の特徴が窺えます。



画像提供：奈良文化財研究所

■平城宮の朱雀門

奈良時代の都であった平城京の大内裏(天皇の住居とその周囲の官庁一帯)である「平城宮」の南門は、「朱雀門」と呼ばれています。

発掘調査により、平面規模は桁行5間、梁行2間の規模であることがわかりました。柱間はすべて等間隔で17尺(5.015m)です。従って朱雀門の平面規模は桁行85尺(25.075m)、梁行34尺(10.03m)で、都の正門にふさわしい巨大で荘厳な門です。



■志波城の外郭南門

延暦22年(803)に造営された志波城の外郭施設の南門です。

発掘調査により、平面規模は桁行5間、梁行2間であることがわかりました。柱間の間隔は、桁行2.7m+2.7m+3.0m+2.7m+2.7m、梁行3.0m+3.0mで、建て替えはありません。秋田城の外郭施設の門より、全体的に規模が大きいものです。現在、志波城の外郭南門は、板葺きの櫓門として復元にされています。また、門には築地塀がとりつき、弓矢を射るための櫓があります。



■弘田柵の外郭南門

9世紀初めに造営された弘田柵の外郭施設の南門です。

発掘調査により、平面規模は桁行3間、梁行2間であることがわかりました。柱間の間隔は、桁行2.86m+3.54m+2.80m、梁行3.32m+3.33mです。秋田城の外郭施設の門と平面規模が類似しており、大きさは秋田城の外郭南門が少し大きいです。建て替えはありません。現在、弘田柵の外郭南門は板葺きの櫓門として復元されています。また、材木塀がとりつきます。

秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL]018-845-1837 [FAX]018-845-1318
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp

